

「認知症フレンドリー講座」開催概要・パッケージ価格表

会場

ご指定の開催会場に伺います。受講者が後方の席からでもスクリーンがはっきり見えて、スピーカーからの音声が聞き取りやすい環境をご用意いただくと幸いです。

講座時間

「認知症フレンドリー講座」は認知症VR体験を含む90分～120分程度のプログラムをご提供します(主催者さまのご挨拶の時間などを含まない正味時間です)。内容については、ディスカッションの時間を採り入れるなどご要望に応じてある程度カスタマイズ可能です(講座時間は延長する場合があります)。

VRヘッドセット

受講人数分のヘッドセットをご用意します。1人1台でVR体験いただけますので、感染対策上も安心です。

主催者様で ご準備 いただく備品

- ・スクリーン(壁などに映せる場合は不要)とプロジェクターまたはモニター
- ・電源(パワーポイントを映し出すパソコン用やVRヘッドセットの充電用です)
- ・スピーカー(小型であれば弊社からの持ち込み可能です)
- ・講師用のマイク(会場規模によっては必要ありません)
- ・受講者の机とイス(机にはヘッドセットや公式テキスト等を置かせていただきます)

講師派遣フルパッケージ価格表

プラン	ご提供価格	想定派遣講師数
1～30台導入プラン	¥198,000	1人
31～40台導入プラン	¥225,500	1人
41～50台導入プラン	¥275,000	2人(1人)
51～60台導入プラン	¥330,000	2人(1人)
61～70台導入プラン	¥385,000	3人(2人)

- 上記メニューには、講師1人の派遣、講義プログラム提供(正味90分～120分)、認知症VR体験用機材利用料、VRプログラム利用料、公式テキスト、VRマスク、機材配送費(往復)を含みます。
- 上記のVRヘッドセット導入台数別プランは講座1回あたりの価格です。1日に2回の講座を実施する場合は2回分の料金が必要です。
- 71台以上ご用意が必要な場合はご相談ください。別途、見積もらせていただきます。
- 派遣講師が航空機、新幹線、特急を利用するなどの長距離交通費については別途請求(JR新橋駅起点で換算)させていただきます。開催時間によっては宿泊が必要になる場合があります。その際は別途請求させていただきます。
- 派遣講師数のカッコは補助講師の人数です。VR体験の運用のため、ヘッドセット台数によって補助講師数が増えます。補助講師は1人につき、派遣料38,500円と往復交通費がかかります。
- 追加で派遣される補助講師については主催者様のスタッフでお手伝いいただける場合は不要になる場合がありますので、ご相談ください。
- 土日祝祭日の開催、早朝・夜間帯でも別途費用は発生しません。
- 年間で複数回実施を確定いただける場合は、提供価格についてご相談に応じます。
- 弊社が展開する「認知症フレンドリー市民上映会(<https://dementiavr.asahi.com/movie/>)」とセットでお申し込みの場合は上記のご提供価格の本体価格から5%割引します。
- 本講座は13歳以上が対象です。
- 表示価格はすべて消費税込みです。提供プログラムや価格は予告なく変更する場合があります。

本人インタビューや
VRを活用する「体験型」講座

認知症 フレンドリー講座

認知症とともに生きていける地域づくりへ



 認知症フレンドリー講座

ご依頼や
お問い合わせは
こちら

朝日新聞社「認知症フレンドリー事業」事務局

〒104-8011 東京都中央区築地5-3-2

メール dementiavr@asahi.com

ウェブサイト <https://dementiavr.asahi.com/>



認知症とともに生きる地域を考えてみませんか

朝 日新聞社が全国で展開する「認知症フレンドリー講座」は認知症とともに生きるご本人の思いを知り、地域とともに暮らす共生社会のあり方を考える出張講座として、2019年にスタートしました。認知症とともに生きるご本人のリアルな声を聞いていただき、認知症VR(バーチャルリアリティ)体験をすることによって、どのように寄り添い、向き合えばいいのかを考えてもらいます。新聞社の持つさまざまなリソースを活用しながら、「新しい認知症観」の獲得を目指し、社会全体で支え合う「社会モデル」の視点からお伝えする内容です。

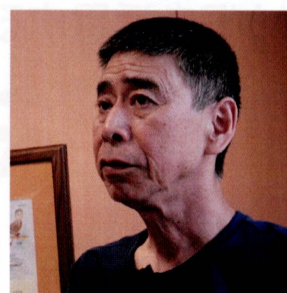
講座は、一方的に聴講するものではなく、「体験型」の内容です。ご本人インタビューの視聴や、認知症VR体験はその重要なパートになります。新聞社の豊富な取材素材を生かし、講義全体を通して認知症について新たな認識や理解を深めていただけます。さらに読み応えある公式テキストや新聞記事などの資料をご用意しています。受講後にも振り返っていただけます。

講師派遣型の本講座に加え、ファシリテーターを派遣する認知症VR体験会の開催もご用意しています(右ページ参照)。

【講座プログラムの特徴】

- ◎認知症の人が体験や思いを語るインタビュー動画
- ◎認知症の人や専門家に取材を重ねて作ったVR体験
- ◎専門医が監修、わかりやすく解説する動画も
- ◎随所に工夫をこらした飽きさせないストーリー展開
- ◎新聞社の豊富な取材素材を活用

講義で配布する公式テキストには取材記事も入り、読み応え十分。持ち帰って講座内容を振り返れます。



■ 神矢 努さん

認知症になると、どんな症状が出て、どんなことに困るのかなどを中心に語っています。日常生活で遭遇する困難が具体的に述べられています。

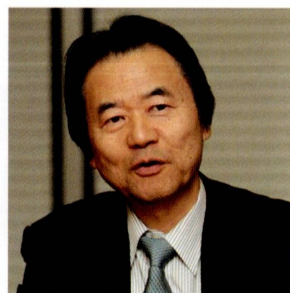
■ 藤田和子さん

藤田さんが代表を務める日本認知症本人ワーキンググループ(JDWG)は、認知症になってからも希望と尊厳をもって暮らし続ける社会を創り出す活動を続け、2018年11月に「認知症とともに生きる希望宣言」を発表しました。認知症になった本人としての思いや、母として、元看護師として、家族や周囲とどのような関係を築いているのかを語ってもらいます。



■ 朝田 隆医師

(東京医科歯科大学客員教授)
認知症治療の第一人者が、そもそも認知症はどんな病気なのかをテーマ毎にくわしく解説します。VR動画の中ではナビゲーターも務めています。



■ 丹野智文さん

周囲にどう接していいのか。家族とはどうあってほしいのか。そして、どんな社会であってほしいのかをご自身のエピソードを交えながら話します。本人にしか語れないヒントがたくさん伝わります。

講座プログラムの一例(90分想定の場合)

本人インタビューの視聴やVR体験などを活用して講座を進めていきます。講座時間は90分～120分。ご希望に応じて設定します。長時間でもあきない工夫を随所に仕掛け、知識の習得と体験の時間をバランスよく配置して効果的に進めます。以下は90分間を想定した一例です。ご要望に応じてディスカッションの時間を採り入れるなど、カスタマイズ可能です。

- 0分～5分 ごあいさつ・プログラム説明
- 6分～10分 認知症のイメージを変える
- 11分～15分 ミニムービー視聴(前半)
- 16分～20分 本人インタビュー視聴
- 20分～40分 報道機関のとらえ方は
- 41分～50分 疾患としての認知症
- 51分～65分 みんなでVR体験
- 66分～75分 どう寄り添い、向き合うのか
- 76分～80分 本人インタビュー視聴
- 81分～85分 ミニムービー視聴(後半)
- 86分～90分 まとめ・ともに生きる社会とは

没入感のあるVRヘッドセットで安全に快適視聴



VR体験はSkyworthやOculus Goなど高解像度のスタンドアロン型ヘッドセットを使用します。スピーカー内蔵でヘッドフォン不要。中学生から高齢者まで簡単に操作可能です。

イベント派遣型に最適！「朝日新聞認知症VR体験会」

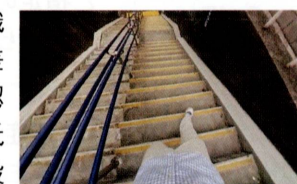
「認知症VR体験会」は「認知症フレンドリー講座」で活用している「VR体験」パートを切り出し、ミニ講座付きの約50分で一単位の体験会になります。半日コースなら最大3回まで、一日コースなら最大6回まで開催できます。VRヘッドセットは標準で10台を持ち込みます。弊社提供形式が主催者さまのイベント展開に適合しない場合は、ご要望に応じてカスタマイズが可能です。お見積もりいたしますので、ご相談ください。

朝日新聞認知症VRコンテンツ

臨場感たっぷりに認知症の人の視点を体感

1 階段を下りる(2分19秒)

空間を把握する認知能力などが低下し、段差が下りづらい感覚を視認できます。認知機能の低下した人が階段などの段差でちゅうちょする理由の一端が理解できます。



2 バスの乗車(2分37秒)

路線バスなどの乗車中や乗降時に困るポイントを再現しています。見当識障害や記憶障害などによって、目的地のバス停が不明確になったり、降車時に運賃の小銭が数えられなかったりする状況がわかります。



3 錯視が見える(1分46秒)

錯視とは実際とは異なったものとして知覚される状態をいいます。格子模様の床がゆらゆらと見えて、歩きづらくなる状態の一端が理解できます。



4 幻視が見える(2分05秒)

主にレビー小体型認知症に特徴的に現れるとされる幻視を再現しています。比較的多いとされる子どもの幻が見える状況を実感できます。



5 自動車の運転(2分46秒)

認知機能が低下した人の運転状況を再現しています。距離感がつかみづらくなることで、交差点など運転操作にとまどい車に衝突しそうです。認知機能が低下した高齢者にも起こることがある高齢者てんかんによって、一瞬意識を失う状況も体感できます。



【補足】認知症の人や、認知機能が低下した人のすべてが上記のVR動画で示すような状況になるわけではありません。症状は人によってさまざまであり、あくまで一例を体験してもらうことで、認知症への理解を促そうとするものです。



講座の一コマ。驚きや納得などさまざまな感情が生まれます。